



保健師 最前線

場数を踏み

やるっきゃない



八幡市

かたおか しおり
片岡 志織さん

「はい」。「ありがとうございます」。明るく元気な声で電話の応対にあたる姿があった。保健師になってまだ2年目。健康推進課の窓口の一番近い所に席がある。「最初のころは窓口にこられた市民さんに十分な説明ができず、ため息ばかりついていました。電話でも、何を言っているのか分からず、出るのが本当に怖かったです」と話してくれた。

そんな片岡さんを変えたのは？ 「運動部魂ですかね」とにこやかに笑った。中学では吹奏楽部でチューバを吹き、高校はチアダンス、大学ではバスケットに汗を流し、悩む前にまず体で覚える大切さを学んだという。「職場の先輩に、電話をとらせたらあかんやろ。後輩の自分が電話に出なアカん！」。そう言い聞かせ自分を奮い立たせた。今では先輩の保健師さんらに電話をとらないようお願いしているとか。「窓口の対応も場数を踏むしかないと思い、できるだけ窓口に出るよう心掛けています」。心の切り替えと持ち前の行動力がすごい。

1歳8カ月児健診、親子教室、発達健康相談などの母子保健や地区担当で赤ちゃん訪問などを受け持っている。「地域の乳幼児らと関われる母子保健の仕事など、1年目からやりたかったことをたくさんやらせて

もらっています。そのうえ、先輩の保健師さんら職場の手厚いサポートがあり、本当にありがたいです」と感謝の気持ちを忘れない。

とはいえ、へこむ時もある。「結婚もしていないのに、子育ての悩みなんか分からへんのとちがう」。間接的ではあるが、こんな声を耳にしたこともある。「そうかも知れませんが、でも私たちはいろんなお母さんや子どもたちを見てきています。こんな考え方や解決方法や制度などがありますよと言って、複数の選択肢を示すことができると思うんです」と話す。「そのためにも、お母さんが何を求めているのかをしっかり見極め、『なるほど』と納得してもらえる的確なアドバイスができるようになります。場数を踏み、実質的な知識量を深め、先輩に一步でも近づきたい」

職場のバスケット部に入っている。丹後半島を走る駅伝大会に出場したのをきっかけに、運動不足解消もかね最近ジョギングを始めた。「外に出かけることや走るのが好きなんです」。仕事以外でもアクティブだ。

「いろんな人と関わり、いろんな人の考え方を知りたくてこの仕事を選びました。『やるっきゃない』の心構えで頑張ります」。なんと頼もしく、初々しかった。